

# 長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第11週 2026年年3月9日(月)～2026年年3月15日(日) 2026年3月19日作成

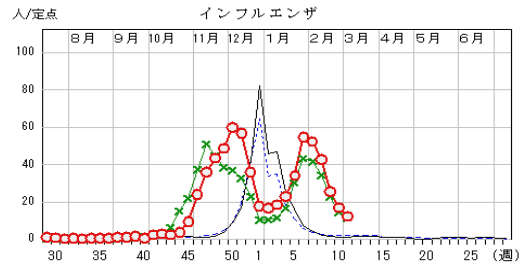
☆定点<sup>\*</sup>報告疾患(定点当たり報告数の上位3疾患)の発生状況

## (1) インフルエンザ

第11週の報告数は621人で、前週より238人少なく、定点当たりの報告数は12.18であった。

年齢別では、10歳未満(336人)、10～19歳(190人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所(20.14)、上五島保健所(18.33)、壱岐保健所(15.00)であった。

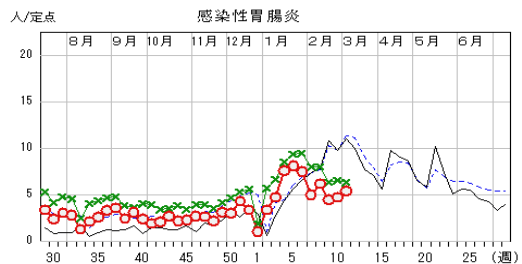


## (2) 感染性胃腸炎

第11週の報告数は167人で、前週より20人多く、定点当たりの報告数は5.39であった。

年齢別では、3歳(21人)、2歳(20人)、1歳(17人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所(15.50)、西彼保健所(12.67)であった。

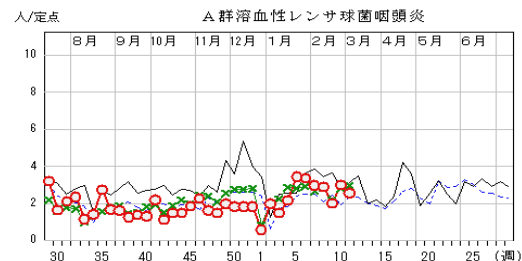


## (3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第11週の報告数は79人で、前週より14人少なく、定点当たりの報告数は2.55であった。

年齢別では、10～14歳(14人)、6歳(13人)、5歳(10人)の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所(6.00)、西彼保健所(4.33)であった。



○ 当年(長崎県)      前年(長崎県)  
 × 当年(全国)      前年(全国)

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

## ☆上位3疾患の概要

### 【インフルエンザ】

第11週の報告数は621人で、定点当たり報告数は12.18となりました。5週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が17週間継続しています。地区別では、10保健所のうち6保健所で警報レベルの報告数となっています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【感染性胃腸炎】

第11週の報告数は167人で、定点当たりの報告数は5.39でした。地区別にみると、県北地区（15.50）、西彼地区（12.67）は他の地区より多くなっています。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第11週の報告数は79人で、定点当たりの報告数は2.55でした。地区別では、県南地区（6.00）、西彼地区（4.33）が他の地区より多く、西彼地区は警報レベルの報告数が継続しています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：インフルエンザが流行しています

2026年第11週（3月9日～3月15日）の患者報告数は621人で、定点当たり報告数は12.18となりました。5週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が17週間継続しています。

地区別にみると、10保健所のうち6保健所で警報レベル、1保健所で注意報レベルの報告数となっています。

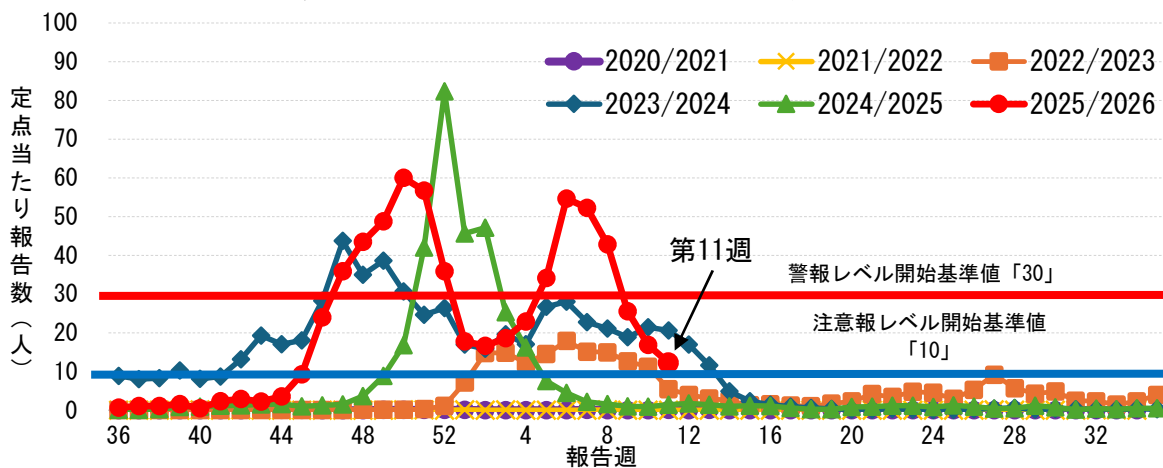
年代別では、10歳未満（336人、54%）、10代（190人、31%）が多くなっています。

今後も手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。

●厚生労働省 「インフルエンザ総合ページ」

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleenza/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleenza/index.html)

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



☆トピックス：海外渡航の際は、感染症に注意しましょう

春休みを利用して海外に出かける方の増加が予想されます。海外では、日本に常在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報を入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

●厚生労働省ホームページ「海外へ渡航される皆様へ」

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index\\_00003.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003.html)

**☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう**

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

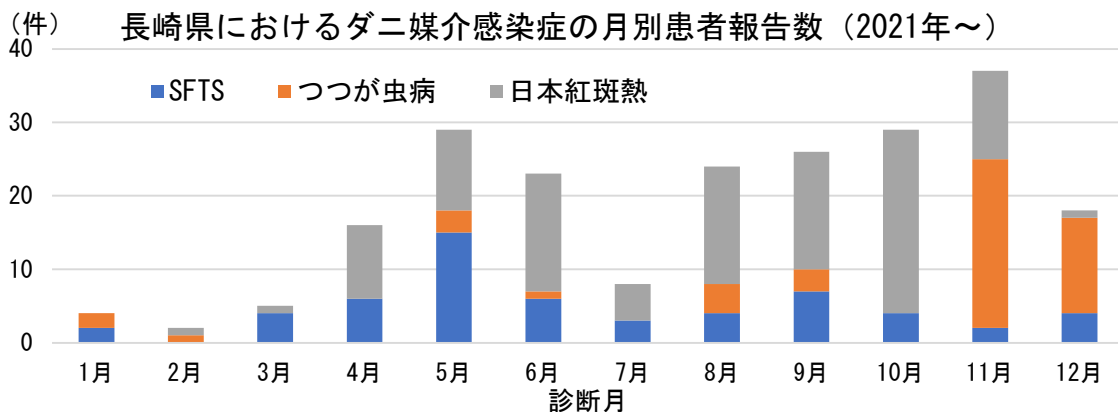
SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

●厚生労働省ホームページ 「ダニ媒介感染症」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

●長崎県地域保健推進課 「ダニ媒介感染症の予防」

<https://www.pref.nagasaki.jp/doc/page-299534.html>



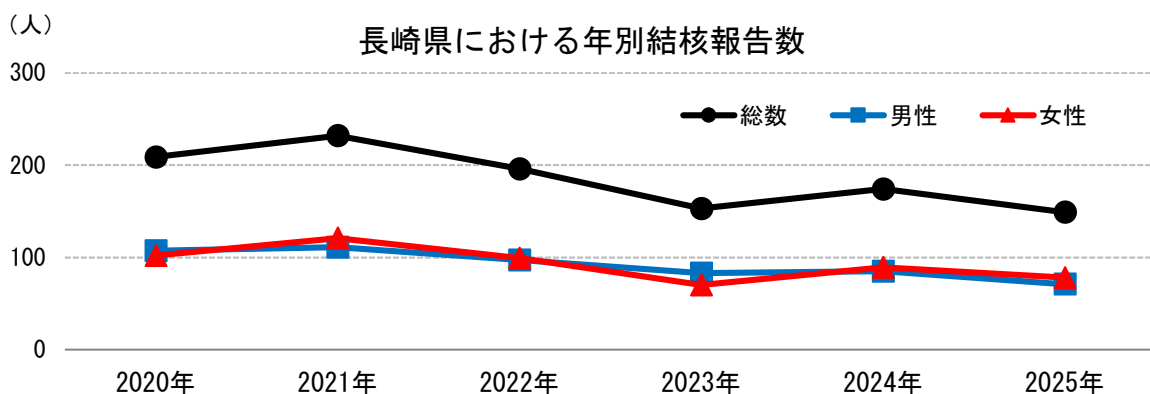
**☆トピックス：3月24日は世界結核デーです**

世界保健機関（WHO）は、細菌学者ロベルト・コッホが1882年に結核菌の発見を発表した日にちなみ、毎年3月24日を「世界結核デー」と定めています。

結核は、結核菌の感染により起こる感染症で、多くは肺に炎症を起こします（肺結核）。肺結核の症状は、咳、喀痰、微熱が典型的とされており、胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振等を伴うこともあります。また、肺以外にもリンパ節や骨・関節、腎臓などさまざまな臓器に病変を起こすこともあります。

長崎県では、人口10万人当たりの結核罹患率が例年全国ワースト10位に入っており、2024年も「9.6」で、全国平均「8.1」より多くなっています。

結核は、早期発見・早期治療が重要です。咳や痰、微熱、体のだるさなどの症状が2週間以上続く場合は、医療機関を受診しましょう。



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 女性（80代以上・1名）  
 無症状病原体保有者 女性（40代・1名、80代以上・1名）  
 3類感染症：報告なし  
 4類感染症：レジオネラ症 無症状病原体保有者 女性（80代以上・1名）  
 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 女性（60代・1名）  
 水痘（入院例） 患者 男性（10代・1名）  
 梅毒 患者 男性（30代・1名、50代・1名） 女性（20代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第6～11週、2/2～3/15)

疾患名	定点当たり患者数					
	6週	7週	8週	9週	10週	11週
	2/2～	2/9～	2/16～	2/23～	3/2～	3/9～
インフルエンザ	54.59	52.25	42.82	25.49	16.84	12.18
新型コロナウイルス感染症	0.71	0.59	1.35	0.88	0.43	0.33
RSウイルス感染症	0.58	0.29	0.35	0.58	0.48	0.68
咽頭結膜熱	0.81	0.55	0.55	0.29	0.55	0.35
A群溶血性链球菌咽頭炎	3.35	2.97	2.90	2.00	3.00	2.55
感染性胃腸炎	7.48	4.97	6.19	4.48	4.74	5.39
水痘	0.19	0.42	0.26	0.26	0.68	0.16
手足口病	0.23	0.23	0.10	0.29	0.26	0.23
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.23	0.35	0.19	0.13	0.35	0.26
突発性発しん	0.10	0.19	0.23	0.29	0.45	0.35
ヘルパンギーナ	0.03		0.03	0.03		
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）					0.03	
急性出血性結膜炎						
流行性角結膜炎	1.50	2.75	2.00	1.00	0.75	0.75
細菌性髄膜炎					0.08	
無菌性髄膜炎						
マイコプラズマ肺炎	0.08	0.67	0.17	0.25	0.08	0.08
クラミジア肺炎（ワム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）				0.08		
急性呼吸器感染症（ARI）	115.24	108.35	96.41	75.63	71.39	62.16

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第11週、3/9～3/15) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	12.18	20.14	11.91	15.00	9.00	11.13	12.80	10.33	2.67	18.33	4.00
新型コロナウイルス感染症	0.33	0.86	0.09	1.00		0.25	0.60	0.33		0.33	
RSウイルス感染症	0.68	1.00	0.67		1.33	1.20	0.67				0.50
咽頭結膜熱	0.35	0.25			1.00	0.20	0.33	2.50			
A群溶血性链球菌咽頭炎	2.55	3.00	1.67		4.33	3.40	6.00		0.50	1.00	3.00
感染性胃腸炎	5.39	5.25	3.17	1.00	12.67	7.40	1.33	15.50	7.00		0.50
水痘	0.16		0.50		0.33	0.20					
手足口病	0.23					1.20		0.50			
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.26	0.25				0.20	0.33	2.50			
突発性発しん	0.35	1.50	0.17			0.60			0.50		
ヘルパンギーナ											
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.75	4.00	0.33				1.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.08		0.33								
クラミジア肺炎（ワム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	62.16	78.71	92.00	36.33	75.00	62.00	37.40	35.67	22.33	47.67	41.00